

ぐんまこどもの国児童会館

ニコっと通信

nicotto tsu-sin!



2012.1.15

第36号

発行/公益財団法人群馬県児童健全育成事業団



あけましておめでとうございます

本年もみなさまのご来館を、心よりおまちしております!

ぐんまこどもの国児童会館 スタッフ一同



2/17金

児童健全育成講演会

「ウルトラパパの絵本と子育て ～お父さんはウルトラマン～」

絵本作家であり、父親でもある宮西先生の子育てや、作品に込めている思い、読み聞かせの大切さなど・・・。

講演会終了後サイン会も行います。
(当日絵本購入者1人1冊)



	講演会	託児
時間	13:30～15:15(受付12:45～)	
会場	多目的ホール	研修室
定員	300名(未就学児の入場はできません)	40名
申込	事前申込1/4(水)～	

共催：群馬県児童館連絡協議会

後援：ぐんま地域活動連絡協議会・

群馬県民生委員児童委員協議会



2/18土

スターリーコンサート

「岩崎孝昭 in プラネタリウム」

★ プラネタリウムの満天の星の下、エレクトーンの音色で素敵な音楽の時間を過ごしてみませんか? 当日の星空の解説も行います。★

- ① 時間 13:30～(約40分・子ども向き)
対象 どなたでも(未就学児は保護者同伴)
申込 当日受付
会場・定員 スペースシアター/182名
- ② 時間 15:00～(約70分)
対象 小学生以上(未就学児の入場は不可)
申込 事前申込1/6(金)～
会場・定員 スペースシアター/182名

休館日

1月… 10日(火)・16日(月)・23日(月)・30日(月)
2月… 6日(月)・13日(月)・20日(月)・27日(月)
3月… 5日(月)・12日(月)・19日(月)・26日(月)



ぐんまこどもの国児童会館

〒373-0054 群馬県太田市長手町480
TEL. 0276(25)0055 FAX.0276(25)0059
URL <http://www.kodomonokuni.or.jp/>

群馬県初の新アトラクション登場!!

まじかるステップ



12/23(金・祝)、1階サイエンスワンダーランドに新しいアトラクションが登場しました！その名も「まじかるステップ」。

「まじかるステップ」とは、カメラによって、人の動きを感知し、それに対応して映像コンテンツが次々に反応する、これまでにない全く新しいタイプのインタラクティブ型アトラクションです。もちろん群馬県内初となります。23日の開始式では、テープカット後、スタッフが遊び方を子ども達にレクチャーすると、足下にかわるがわる映し出される映像に見入ったり、追いかけたりと反応は様々でしたが、あっというまに人気のアトラクションになりました。

ご来館の際は、ぜひ体験してみてくださいね。

冬を楽しむ工作

スノードームをつくってみよう

12/18(日)に開催した絵本のワークショップ「ちいさなサンタさん～スノードームをつくろう～」より「スノードーム」の作り方を紹介します。今回はメインの飾りをサンタさんにしましたが、スノーマンなどでも冬を楽しめるのではないのでしょうか？また、夏には熱帯魚やマーメイドでも素敵かもしれませんね。



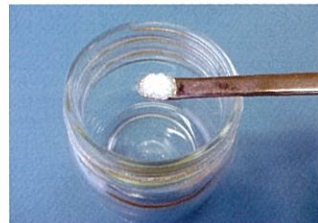
材料・道具

- 水と洗たくのり(6:4) ○飾り(水に溶けない物)
- スノー(細かいキラキラしたもの、ネイルアートのラメなど)
- 瓶(フタがしっかり閉まる瓶、水漏れしないかチェックしてね)
- ペットボトル ○ジェルタイプの耐水性接着剤

- 1 ピンのフタの内側に飾りをのせてピンに入るかチェックし、フタの内側にジェルタイプの耐水性接着剤で飾りを固定します。(ピンに継ぎ目がある場合は、ピンの継ぎ目が飾りの正面にならないよう調整します。)



- 2 ガラス瓶にスノーを入れます。



- 3 ペットボトルに、水6：洗たくのり4の割合で調合した液体をつくり、よく混ぜます。(洗たくのりと水の割合を変えると、スノーの落ちる速度が変わるよ！)
- 4 フタに飾りが固定したら③の液体をピンにいれフタをして完成。

10/21(金)

いきいきママ講座

「ベビーダンスに挑戦!!!」

10月21日(金)のいきいきママ講座では、2児のママインストラクターYOSHIKOこと小林美子先生(25)をお迎えして、47人のママ+パパ1人+赤ちゃん50人で「ベビーダンス」に挑戦しました。ベビーダンスとは、運動生理学を踏まえた産褥期ママのリハビリを兼ねたスキンシップエクササイズ、無理なくできる有酸素運動です。

参加したママたちは、手遊びやストレッチで緊張と身体をほぐし、抱っこひもで子どもを前に抱えて、体験しました。

ベビーダンスのポイントは、姿勢を意識してお尻をきゅっとしめてリズムに合わせてステップを踏みます。ステップ!?なんて難しそうに思いますが、前後左右にゆっくりと動く簡単なステップです。ママたちは、インストラクターの動きを真似ながら一緒にダンスを楽しみます。はじめにサンバ(どんぐりころころ)のリズムでおへそから下のたるんだ皮を意識し汗をかいていきます。じわじわと汗をかいたら最後に骨盤ブルース(おつかいありさん)でクールダウンをしていきます。

ベビーダンスをはじめて60分弱。この頃になると、抱



っこされていた赤ちゃんは心地よい揺れとぬくもりで、ほほみんなスヤスヤと夢の中でした。ベビーダンスは、赤ちゃんの寝かしつけにもとっても有効的なようです。

終了後にお話を伺うと、「子どもの顔を見ながら参加できて安心できた。」「久しぶりに運動して気持ちよかった」「きれいで素敵なママを目指します!」「また、挑戦したい」などと大好評でした。



YOSHIKO
(小林美子先生)



10/29(土)

わくわくパパ講座

「おやこであそぼう!ミニピック」

10/29(土)わくわくパパ講座「おやこであそぼう!ミニピック」では、お父さんが大活躍の運動遊びを行いました。音楽にあわせた体操からはじまり、ちょっと照れくさそうなパパもいましたが、みんな素敵な笑顔です!

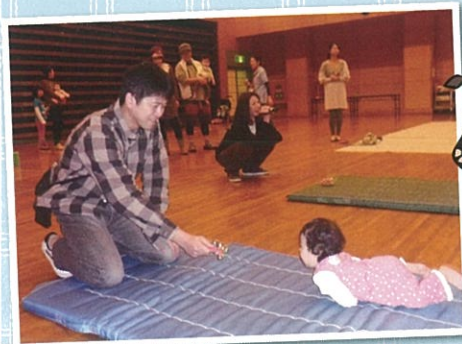
午前の回では0、1歳を対象に、ハイハイでGO・玉入れ・綱引き(タオルでひっぱりっこ)・おやこあそび(がたとバスなど)。

午後の回では2、3才を対象に、新聞をつかって遊びます。新聞ランナー(新聞の壁をパンチで突き破って走ります)、新聞のせバランス(小さく折りたたみ頭の上にのせてバランスよく歩きます)、風船はこび(新聞の上に風船をのせてパパと協力して運びます)、どれくらい長くきれるかな?(1枚の新聞を切れないよう長く手で切っていきます)、玉入れ(新聞紙を丸めて玉をつくったら玉入れをします)、リトミック。

どちらの回も身近なものをつかい、ちょっとだけいつ

もと違うかなあ?と思う遊びをしました。親子だけしかわからない遊びや、いつもの遊びも大切にしながら、四季折々、ちょっと工夫して遊ぶのも楽しいですね。

今回のパパ講座を通し年々、育児を楽しむパパたちが増えてきているのを感じます。お休みの中、参加していただきありがとうございました。



ぐんまこどもの夢大賞

第20回

入選作品

「ぐんまこどもの夢大賞」は、児童文化の振興を図る目的で、群馬県と当児童会館の運営主体である公益財団法人群馬県児童健全育成事業団の共催で毎年行っています。18歳未満を対象とした絵画と、小学生以上18歳未満を対象とした童話の2部門を夏休みに合わせて募集を行い、今年は絵画8,665点、童話531点というたいへん多くの皆様から作品をいただきました。

審査の結果、絵画は最優秀賞3点、金賞16点、銀賞24点、銅賞40点、奨励賞105点が、童話は最優秀賞1点、金賞3点、銀賞6点、銅賞7点、奨励賞12点が入賞しました。

ここでは、最優秀賞を受賞したみなさんの作品とインタビューを紹介します。

インタビュー内容

- ①受賞を知ったときの気持ち
- ②制作時間
- ③どうしてこの作品をかこうと思ったか
- ④次は何をかきたい?
- ⑤将来の夢
- ⑥保護者のことば

絵画

最優秀賞



高崎市立東部小学校(1年)
中嶋 亮太 さん

「宇宙で映画撮影」



- ①うれしかった
- ②2日くらい
- ③宇宙飛行士と映画監督になりたかったから。宇宙人が好きだから。
(ディズニー、ファンタジーが大好き。創造して絵をよく描いています。)

- ④いろいろ、動物など。
- ⑤宇宙飛行士と映画監督
- ⑥おめでとう!いつも絵をかいて遊んでいるので、今回の賞がこれからの励みになればいいと思います。

最優秀賞



富岡市立小野小学校 3年
金井 もえ さん

「科学者になりたい」



- ①お母さんが新聞に絵がのっているのを見つけて教えてくれた。びっくりした。
- ②1週間くらい
- ③科学者になって薬をつくり、病気や困っている人を助けてあげたいと思ったから。
- ④動物園で働いている人
- ⑤科学者
- ⑥今年が世界化学年なので、これから女性でも化学者になって、活躍できればよいと思います。

最優秀賞



伊勢崎市立四ツ葉学園
中等教育学部 3年
近藤 瑞希 さん

「世界に広まれKOINOBORI」



- ①上毛新聞に結果が掲載され、とても驚きました。学校では美術部に所属していて、日ごろの成果がこのような結果となって表れとても嬉しかったです。家族もとても喜んでいました。
- ②1週間ほどかかりました。
- ③グローバル化していく現代社会の中で、人とのつながりというものが大切になっていますが、絵のように僕は鯉幟(こいのぼり)をひとつの、かけ橋として世界とつながれたらと思いこの絵を描こうと思いました。
- ④美しいものを描いているだけでなく、見た人が心うたれるような心に残るような物を描いていけたらと思います。
- ⑤上に書いたように伝統文化を守っていくような仕事に就けたらいいと思います。そして少しでも、日本、そして世界を担える一人になればいいと思います。
- ⑥小さな頃からこいのぼりの絵を描くのが好きだったので、思いのこもった絵が描けたと思います。
- ⑦これからも絵画の制作などに積極的に取り組んでいきたいと思っています。

童話

最優秀賞

「子蜘蛛と命の物語」

太田市立旭中学校 3年 富井 聡美 さん



- ①なんでみんなが「すごい」といって拍手してるのがわからなかった。金賞より上だとは思っていなかった。
- ②夏休み中
- ③自分は虫が好きで、ファールの本も読んで、こういうのを書いてみたいと思った。
- ④また虫の話を書いてみたいです。
- ⑤福祉関係の仕事につきたいと思っている。
- ⑥おめでとう!!



子蜘蛛と命の物語

太田市立旭中学校 3年 富井 聡美

「蜘蛛」

クモ形綱真正クモ目に属する節足動物の総称。体は頭胸部と腹部とからなり、胸部に四対の歩脚がある。腹端に紡績突起があって糸を出す。普通、八個の単眼をもち、複眼はない。頭部には脚の変化した触肢がある。雌は卵を産むと、一切食べ物を口にせず、子供のために頑張り、子供が生まれると初めに母親を餌として食べる。分類上は、昆虫よりサソリ、ダニなどに近い。

初めに口した味は、とてもおいしかった。私が蜘蛛という生き物だと知らされたのはまぶしい世界に出会ったその後だった。目をあけると世界はまぶしくて、どこを見ても、まぶしいという事しかわからなかった。やっと見つけたまぶしくない物は動いている物だった。まぶしい物は動かなかった。アレは何だろう。あのまぶしくない物をもっと知りたい、側に近づいてみたい。そう思いまぶしくない物の側に行くが、

「くっ、くるな。」

「たべないで、お願いだから。」

「蜘蛛が来た。逃げろ。」

わかった事と言えば、まぶしくない物が私が近づくととはなれて行き、私を蜘蛛と言う事。そんな時、私に近づいて来てくれる物が一匹いた。

「無闇矢鱈に獲物に近づいたら、逃げられるに決まっておろう。む、お前は生まれたばかりか。儂か。儂もお前と同じ蜘蛛じゃ。」

そうして私は蜘蛛であり、頭に単眼という目を持っているが、主に明暗に反応するだけで、他の生き物、つまりまぶしくない物は同じ目でも複眼という目を持ち、物体の形態、色彩弁別の能力をもっている。この生き物たちを食べ、蜘蛛は生き

て行くという。だから皆は私を見て逃げた理由や、単眼という目を補うために蜘蛛の糸で巣を作り、巣にかかった獲物を食べる。これなら、目が見えなくても、巣にひっかかった時の振動でわかるという事、巣の作り方など基本や、知識を教えてくれた。私と同じ蜘蛛でもこの蜘蛛はなんでも知っててなんでも教えてくれる。そんな蜘蛛でも一つだけわからないものがあつた。

初めて口にしたあのとてもおいしいものはどんな獲物なのだろうと言うこと。

「お前は見た所、雌蜘蛛のようじゃな。なら大人になればいずれわかることじゃろう。さあ、儂がこれから言う事で最後じゃ。上へ上へどこまでも上に。太陽が近くに見えるほど草花のてっぺんにのぼり、糸を出し、風を感じ、空中へ旅立つんだ。さあおいき。空中旅行へ。儂が教えてやれる事は何もない。」

「蜘蛛。それはもう会えないと言う事。」

「何を言ってる。世界は広い。いつかまたあえるさ。さあおいき。」

私は言われたとおり上にのぼり風によって空へ旅に出た。蜘蛛の目は単眼で明暗しかわからないと言われたが、下にいる蜘蛛を見た時、蜘蛛が泣いているように見えた。その後風があまりにも気持ちよくふいていたので寝てしまい、自分がどうなったのか覚えていない。目がさめた時、まぶしい世界ではなく、まぶしくない世界になっていた。風がやんでおり、私は、木の枝にひっかかっていた。私はすぐ蜘蛛に教わった知識の中に夜があつたことを思い出した。蜘蛛は夜をさみしい色だと言っていた。さみしいは教えてもらっていない。さみしいは何だろう。その前に蜘蛛の目は明暗しか見えないのでは。その前に、私は何か大切な事を忘れてる。

「ああっ。巣を作って、獲物を食べなくてはと、蜘蛛に言われたのに。」

いそいで巣を作った。だからといってすぐ獲物がかかることはあまりない。かかるのは明日いや、一週間後かもしれない。これは、生きていくための戦いなんだ。静かに息を殺して。そうして時間がすぎたとき巣が振れた。私はその振れをたどり器用に足を使い獲物に糸をかけた。はじめての獲物、味はどうだろう、あれよりおいしいのか、そう思い食べようとした時。

「食べないで。はなしてよ。」

ああっ。おしりの針で刺して動かないようにさせるのを忘れていた。

「やめてよ。ぼくは、お母さんみたいになっていつか空をとぶんだ。」

なぜ私の動きがピタリととまった。お母さん、オカアサン、おかあさん。聞いたことない言葉なのに体がじんとしてくる。

「えっ、お母さんって何って。君も知らないの。ああっ。おこらないで、ぼくも知らないんだよ。人の世界を旅をするハエさんから聞いたんだよ。お母さんはね、ぼくたちを作ってくれるものだよ。人はね生まれてからずっとお母さんと一緒にいれるけどさ。ははは。不思議だね。ぼくたちのお母さんは、ぼくたちと一緒にじゃない。お母さんに一度も会えない。知らない、わからない。でもぼくね、空をとんでくチョウチョを見るたび、お母さんと同じだ、いつかお母さんのようにとびたいって思ってたんだよ。でもこれじゃあだめだね。あっ、別にはずそうとしなくていいよ。知ってるもん。蜘蛛の糸は頑丈で一度ついたらとれなくて、動くとよけいくつつくんだよ。ええっ。知らなかったの。ひいっ、おこらないでよ。だからいいよ。針で刺して、ぼくを食べていいよ。」

その後、獲物はぐったりとして動かなくなり、そして私は獲物を食べた。あれほどおいしくなかったが、うまかった。だけど、獲物は子グモの自分より大きく、一度では食べることができなかった。でもせめて時間をかけて全部食べてあげたかった。できなかった。蜘蛛は死んだ獲物、食べ終わった獲物に興味がなくなり、糸をかみ切り下におとしてしまう。まさに蜘蛛が教えてくれたままだった。あんなに会話したのに、殺してしまったのに、夢をこわしてしまったのに、食べてあげられなかったのに、糸を切るとき、何も思わなかった。こんな自分がこわかった。でも空腹がすぐやってくる。食べては下におとす、そのくり返し。自分は生きるために他の生き物の夢を壊している。その事実がたえられなかった。そんな時、思いうかべるのはチョウになりたいと言った獲物の夢、お母さんになりたいという気持ち、それがいつの日か自分の言葉になり、自分の夢になっていった。獲物を捕る腕が上がり、体は成長し、獲物を食べる量も増えた。そして私は大人の蜘蛛になり恋をして卵を産んだ。大人になるのは、あっというまだ。自分がまだあの小さな体みたいと錯覚してしまいそうだ。でも錯覚ではない、夢ではない。なぜなら私は、お母さんになり、今卵の見張りをしている。卵は、糸でつないだ真ん中に、長細いおさらのような巣の中に産み糸のふたをかぶせ、さらに

その上に天井をこしらえた頑丈なもので、母である私はそのすみっこに巣をつくり卵の家を見張る。そのうち自分がみるみる年をとっていくのがわかる。そのはずだ。私は卵を産んでから何も口にしていないし、水すらのんでいない。まるで卵から子がかえるまでただ守るために生きているみたいだ。巣は見た目よりじょうぶでほうっておいても平気に見える。自分でもなぜこんなことをしているかわからない。でもわかることが一つある。生まれたばかりの子は力が弱いからじょうぶな家をやぶってこれないため、穴をあけてやるのが母の仕事である。だれかにおそわったわけではない。これは生まれた時から知っていた。なぜだろう。今はもう考えることすらできない。でもいつ子がでてくるのか、これはわかる。朝がきて夜がくる。小さいころはあんなに大好きだった獲物を見て何もしない。ただその日をじっとまち続ける。

ただかわいい、まだ見ぬ私の子のために。

そして、その日が来たような気がした。私は、はうように巣に近づき力がはいらない口を使い穴をあけるとその場に崩れ落ちた。これで子はぶじ外にでられるのかな。

「まぶしい。」

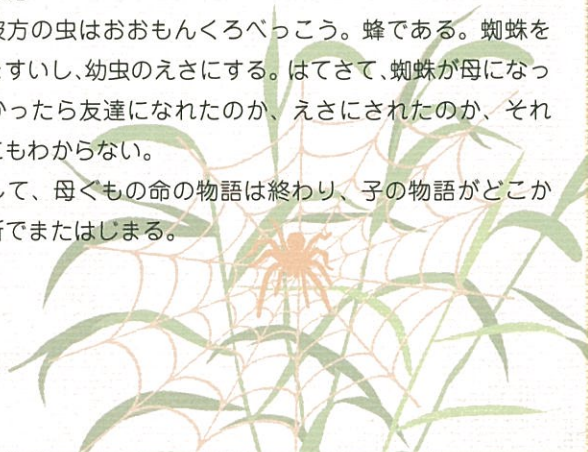
ふとそんな声を聞き、声の方を見ると小さな蜘蛛が一匹、また一匹と出て来る。ああ、愛しい子。ブツリ。鈍い音がした。見ると腹をすかせた子蜘蛛が私の腹を足を食べていた。ああ。蜘蛛の言うとおりの。大人になって今、わかった。あの口にしていた味は母の味。子を想う母の味。痛みは感じない。もうすぐ死ぬのだから。チョウの夢をもった獲物さん。私も夢がなかったわ。でももう一度だけ蜘蛛に、会いた、かつ、た。悲しくはなかったが、うれしかった。私の命で子は生きる。子の中で私はもう会えないけど、ずっとそばにいる。見たことも、会ったこともないお母さん。ずっとそばに、いつも一緒にいてくれた。お母さん。命をわけてくれてありがとう。

母蜘蛛の死を命の物語のおわりとはじまりを見ていた虫が一匹いた。その虫は空から見ていた。

「死んでしまったんだね。母の愛を知って死んだんだね。なら幸せだろう。母の愛はあたたかいよ。ぼくはそれを知って生まれた。この命の物語はかならずだれかが死んで生きる物がいる。ぼくにとって君は獲物だったけど、ぼくは友達になりたいって思っていたんだよ。でもごめんね。君が虫をたべるようにぼくも生きていたい。君のおとうさん食べてごめんね。さよなら。」

空の彼方の虫はおおもんくろべっこう。蜂である。蜘蛛を毒針ですすいし、幼虫のえさにする。はてさて、蜘蛛が母になっていなかったら友達になれたのが、えさにされたのが、それはだれにもわからない。

斯くして、母ぐもの命の物語は終わり、子の物語がどこか別の場所でまたはじまる。



ぐんまこどもの国

周辺観光スポット

やぶ塚温泉

新田義貞の隠し湯として知られるやぶ塚温泉。周辺には世界各地のヘビを収容する「スネークセンター」や、江戸時代のテーマパーク「三日月村」などがあります。



三日月村

スバルビジターセンター

工場見学に矢島工場に訪れるお客様にスバルの歴代の車や世界記録を樹立した車、スバルの個性的な技術や環境への取り組みなどを展示、紹介している施設です。見学をご希望される方(団体・一般の方)は事前申込となっております。詳しくは下記よりお問い合わせください。

TEL:0276-48-3101/FAX:0276-48-3102



北部運動公園

春には250本の桜、市民ボランティアにより植栽された芝桜、ネモフィラが約4.6haの丘陵地一面に咲き競い、続いて3万2千本のツツジが開花します。また初冬の太田市を飾る光のページェント。輝くイルミネーションと太田市の夜景が楽しめます。



史跡金山城跡 ガイダンス施設

金山を広く伝えることを目的に開設した施設。歴史解説や発掘・復元調査の解説だけでなく、ジオラマや戦国時代の様子を上映する大スクリーンなど無料で見学できます。

こどもの国からは展望台を経由して、約50分のコースになっています。(金山ハイキングガイドより)



尾木ママ 講演会



9月29日(木)に、尾木ママこと尾木直樹先生の講演会をおこないました。

尾木先生の講演会が決定した直後から、尾木先生の顔を見ないことがないというほど連日のテレビ出演で、講演会へのお問い合わせをたくさん頂きました。

講演会当選の倍率は講演会のみは3.6倍、託児は4.9倍と子育てへの熱意を感じられました。

さて講演会で尾木先生は、「子育てに手遅れはない。人間は死ぬまで成長するのだから今からでも間に合うわよ」と、おなじみのオネエ言葉で会場を笑いで包んでくださいました。実はこのオネエ言葉にも意味があり、やさしさ・安心感を伝えるのだとおっしゃっていました。

「また、人間にとっては辛いときに一番欲しい力は、あいづち(気持ちに寄り添う)をうってもらえること。あいづちをうってもらえると嬉しくて元気がみなぎる。元気がみなぎってくると子どもは意欲的になり、どんな困難にも挑戦しようとする。元気がでる子育てというのは心に元気がでるということ。エンパワメント(元気にすること、力をひきだすこと、共感など...)しあえる人間関係をつくりましょう。」とお話されていました。

そして最後に「どうしたの?それは大変だったわねえ」と心を込めて言ってねえと、会場全体で声をだして練習したりしました。

東日本大震災復興支援

チャリティーバザー

10月16日(日)に開催された「群馬県内児童館フェスティバル」では、「被災地の児童館を応援しよう!」を合い言葉にチャリティーバザーを開催しました。

県内の児童館をはじめ、個人の方からもたくさんの善意の品物が寄せられ、値段も300円までと手頃でしたので、来館されたお客様に喜んで購入していただきました。また、こどもの国ジュニアスタッフが出店した「ヨーヨー」や、地元の農協にご協力いただいた農産物直売も大変好評でした。

売上金の合計は81,313円。全額を児童館活動支援募金に寄付させていただきました。多くの皆さまにご協力いただき、ありがとうございました。

被災地の復興には、まだまだ時間がかかりそうですが、一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

ぐんまこどもの国児童会館では、今後も募金活動を続けてまいりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

